

牛久：学校周辺に見る自然

第36号

牛久理科サークル

2010年8月31日発行

＜第3回 うしくみらいエコフェスタに参加しました。（8/22 牛久市運動公園）＞

昨年の『葉脈標本のしおりやハガキをつくろう!』に続き、今年で3回目となる「うしくみらいエコフェスタ」に『えっ、これが紙に?! 再生紙ハガキをつくろう!』で出展しました。サークルの頼もしい仲間たちのおかげで、だいぶ充実した内容になったと思っています。



皆さんに体験していただいた再生紙ハガキづくりでは、私たちが事前に牛乳パックの両面を覆っているフィルムをはがし、ミキサーでパルプにしておいたものを自作の漉き枠で漉いて、乾燥しスタンプを押してハガキをつくるというものでした。イチヨウ、モミジの紅葉や、ヒイラギの葉脈標本を漉きこんで、味わい深いハガキを作り上げていました。会場が下根の運動公園だったからか、中根小やひたち野うしく小の皆さんがずいぶんたくさん来てくれました。とても嬉しく、励みになりましたよ。



さて、フェスタでは左の写真のような牛乳パックの再生紙・新聞紙の再生紙・野草紙の比較も、それらの廃液とともに展示しました。植物（木材）から紙をつくる場合と比べて、再生紙がいかに少ないエネルギーで、廃棄物も少なく、少ない原料から作れるかを示しましたが、だからといって、新たに木材から紙を大量に生産、消費しては意味のないものになってしまいます。例えばペットボトルは「容器包装リサイクル法」の制定以降、回収率がぐんぐん上がっていますが、それ以上に生産量も上がっていて、ごみの量は逆に以前よりも増えてしまいました。それに多量にリサイクル

すれば使うエネルギーも膨大になるし、廃棄物もかなりの量になってしまいます。また、日本人一人当たりの紙の消費量はアジア平均の12倍、インドの53倍だそうです。これはいったい何を意味するのでしょうか？さらに、リサイクルされて何が作られているかと見てみると、トイレトペーパーなど一度使えば再利用されないものがほとんどです。私たちはもう一度、紙の使用目的（それは紙でなくてはならない物か？）と消費量に目を向ける必要があるのではないのでしょうか？【理科支援員・宮内】